



水谷公民館だより

mizutani
編集 水谷公民館だより編集委員会
発行 富士見市立水谷公民館 / 住所 富士見市水谷 1-13-6
TEL 049-251-1129 / FAX 049-255-9886

もくじ

- <1面>
 - ・特集 年賀状に込めた想い
- <2面>
 - ・水谷公民館からのお知らせ
 - ・こんにちはコーナー

2026
令和8年
1/1

年賀状の歴史

平安時代後期に藤原明衡(ふじわらのあきひら)によって年賀状の例文が書き残されています。

年賀はがきの登場

明治6(1873)年に郵便はがきが発行される。はがきは賀詞交換にも広く使われるようになりました。

年賀郵便取扱の開始

明治32(1899)年年内に差し出されたものを年始に配達する年賀郵便が開始。

年賀切手の発行

昭和10(1935)年、最初の年賀切手発行。

戦時中の年賀郵便

年賀郵便の取り扱いは戦時中に停止されましたが、昭和23(1948)年に再開され、年賀切手の発行も再開されました。

お年玉つき年賀はがき

昭和24(1949)年12月に初のお年玉付き年賀はがきが発行。

*参考 日本郵政G/HP他

年賀状に込めた想い

～つながりのかたち～

年賀状は平安時代から続く日本の伝統文化であり、現代ではデジタル技術の進化とともに多様なスタイルが登場しています。紙とデジタルの併用や個性あるデザインなど、変化するライフスタイルの中で「つながり」を大切にしながら新しい形へと発展しています。

編集委員 細谷 充男

〈もらってうれしい年賀状〉

小学校の図工で版画を習い、その後数年間は年賀状を版画で作り、学生時代は手描きの年賀状、家庭を持つてからはプリントゴッコにお世話になり、ワープロ、パソコンと年賀状作成の道具も目まぐるしく変化。年賀状は当然出すものという考えでいたが、同居家族が減ると今年はどうしようかと毎年悩んでいる。年賀状じまいをした友人もいて、ここ数年は年賀状をいただいた方だけに寒中見舞いを出している。いただいて嬉しいのは、その人らしさの表れた今年は〇〇を目標に〇〇をがんばります等の前向きで意欲的な内容が書いてある年賀状である。こちらもやる気が湧いてくる。

さて、今度は寒中見舞いではなく年末に年賀状を書こうかな。

前向きなマザー

〈年賀状に二次元コード〉

私の年賀状図案は年間の最も印象に残った出来事の写真とコメントが定番でした。

しかし、趣味の星の写真を印刷しても、その素晴らしさが表現できず、年間の出来事の写真選別にも苦慮するようになりました。

そこで、今までの賀状のパターンは維持し、令和6年は星座動画の二次元コードを、令和7年は前の年の選別写真を並べ、それらに合う曲入りビデオをコード化して印刷しました。当然写真の個人情報や曲の著作権には十分配慮し、YouTube等への転載にも注意喚起をする必要がありますが、受け取った方がそれを読み込むとアクセス数が分かり、どのくらいになるかも楽しみになりました。

星大好きパパ

〈年賀状は宝物〉

年賀状は書面として、あとで読み返すことができるので良き思い出になります。特に手書きは書体で人柄がわかり、温かみを感じます。それに対して、今はラインの年賀メールで、温かみがないと感じるので、ハガキのほうが嬉しいです。また、ラインなので住所がわからないし、聞くことにもためらいがあります。学生時代の時の年賀状はいつも楽しみでした。頂いた年賀状は、今も宝物となっています。

Keiちゃん



〈ほろ苦い思い出〉

78年の人生の中で年賀状には赤面する思い出があります。30代の頃から毛筆で書いていた年賀状。一味違う正月のめでたさを演出してくれる小道具のように思います。筆で書くきっかけは友達に意外と字がうまいねと冗談交じりの褒め言葉をもらった事が始まりで、その気になりそれ以来です。ちょっと気になる女友達に、かっこいいところをみせたかったのだと。今思えば、こそばがゆくなりますが何枚も書き直し、何を間違えたのか下の名前を別の女性の名前に書き間違えたことに気づかず投函。思いもしないしっぺ返しをもらいました。今でもあのほろ苦い思い出は人生の1ページになっています。もし、このしっぺ返しが無ければ今の人生変わっていたかも。その年は切手シートが4セット当たり筆無精の自分には無用の長物でした。今は年賀状仕舞いをしました。

ほめ言葉に弱い父

〈直筆へのこだわり〉

我が家の年賀状の枚数は高齢化の進展とともに年々減少している。その間、年賀状の形態は手書きからプリントゴッコ全盛時代を経て、インターネット活用時代へと変貌してきた。年賀状は社交辞令的な意味合いの強い新年のあいさつであるが、お世話になった恩師や友人へ出している。我が家では私も妻も直筆の年賀状にこだわりを持っている。上手い下手は別にして、直筆にはその人の心や感情が垣間見えるような気がしているからである。私は印刷を基本としながらも宛名と近況などの一言コメントだけは手書きにしている。妻は20枚程度ではあるが絵手紙風に書いていた。その妻も2年前に年賀状の歴史に幕を閉じてしまった。私も喜寿を迎えて、そろそろ年賀状での新年のあいさつには終止符を打ちたいと考えている。

絵手紙に心をこめてさん

〈写真年賀状〉

我が家は家族全員が映っている写真年賀状です。夫婦だけの年賀状が長く続き、その間、友人からの年賀状は子供写真だけになりましたが、家族全員と決めました。写真は何かと敬遠されがちですが、この頃、学生時代の仲間が「会えなくても一緒に歳をとっている気がしてきた」と言い始めました。どうやら年々、増えていく白髪としわ顔の私を見て安堵し、私そっくりな娘を見ては学生時代を思い出しているようです。

私そっくりな娘のママ

